

2010年(平成22年)

第30号

(6月15日)

# 平安月報

The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会  
 発行責任者：渉外部長 宮地啓安  
 〒605-0041 京都市東山区三条蹴上  
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

## WC RP 日本委員会の青年が清水寺で ARMS DOWN 署名さらに広がる

5月30日、清水寺にWC RP（世界宗教者平和会議）日本委員会・青年部会のメンバーが集い、ARMS DOWN署名が行われた。8つ宗教・宗派の30名の青年によって署名の呼びかけが行われた。清水寺の大西真興執事長の挨拶があり、メンバー全員での平和の祈りに始まり、清水の観音さまのご加護もあって、三千二百名の署名が集まった。WC RP青年部会が合同で実施する署名活動は、広島・平和記念公園、奈良・東大寺に続いて3ヶ所目。



清水寺境内にて

京都教会では、5月末までに集まった署名が7万人ほどになった。そのほとんどが5月の活動によって集まり、中でも、清水寺では全体の半分近くの署名があった。そこで、6月はほぼ毎日、午後1時から、清水寺でのARMS DOWN署名キャンペーンが実施される。その他、駅前や繁華街などでの街頭署名も次々と予定されている。

このような集団での署名だけでなく、一人で会員がこつこつと足で集めた署名の数も相当に登る。6月6日に、京都教会でARMS DOWNキャンペーンに取り組んでいる6人の会員の体験発表があった。

京洛支部の84歳のKさんは、最初は署名用紙を受け取っても引き出しに入れっ放しだった。しかし、田中支部長（京洛支部）の発表を聞いて、「こら、しなあかな」と思い、通っている病院で署名してもらい、みんなの励ましをもらい、楽しくなってハマッてしまったという。市内を歩いて回り、時には失敗をしながらも、出会った人をお願いし、署名を集めている。毎日、元気で頑張れるのは、“仏さまのおかげ”と感謝し、楽しく署名に歩いている。

歩いて出会った一人ひとりにARMS DOWN署名を集めている人に共通することは、署名をお願いすることで出会った人から、多くのことの学びや励ましをもらい、庭野開祖の平和への願いを自分の願いとし、仏さまから後押しされていると感じ、勇気をいただいていることだ。（つづく）

## 宮崎県の口蹄疫被害に義援金 <一食平和基金>

一食平和基金運営委員会は、宮崎県下で発生した家畜伝染病・口蹄疫の被害に対し、現地への緊急助成を実施した。

5月26日、中村佳代子南九州ブロック長（宮崎教会長）、三島希巳江高鍋教会長、今村忠央延岡教会長の3人が、宮崎県と同共同募金会の「口蹄疫被害義援金」の受付窓口となっている宮崎日日新聞社（宮崎市）を訪問。同社総務局管理部厚生課の柚木崎盛男課長に、義援金200万円を寄託した。

この義援金は、市町村を経由して、口蹄疫防疫活動により影響を受けた畜産農家の支援に役立てられる予定。

4月20日に都農町で疑似患畜の1例目が確認された口蹄疫は、極めて強い感染力で牛、豚などの畜産業に大きな打撃を与えている。一時期終息に向かうと見られていたが、新たに都城市に感染が広がるなど、未だに解決の見通しがつかない。

感染防止とともに農家への補償と畜産業の再建が大きな課題となり、広く義援金への協力が呼びかけられている。

一食平和基金は、各地のニーズに合わせて、自然災害などで被害に会った人たちに対する支援を積極的に展開している。

その他の、籠球（バスケットボール）、闘球（ラグビー）、鎧球（アメリカンフットボール）、避球（ドッジボール）、排球（バレーボール）、門球（ゲートボール）など字を見ればなるほどと思う。これらのゲームは試合が終われば、ノーサイド。勝敗だけでなく、互いを認め合うところにスポーツの魅力を感じる。

六月十一日、サッカーのワールドカップの南アフリカ大会が始まった。最高峰のゲームに世界中の人たちが興奮させられることだろう。ワールドカップを主催するのはFIFA（国際サッカー連盟）だが、世界ではサッカーをフットボールと呼ぶ国のほうが多い。日本では、漢字表記でサッカーを「蹴球」(しゅきゅう)と訳している。同様に、漢字で表す球技として、代表的なものとして、野球（ベースボール）、卓球（テーブルテニス）、庭球（テニス）などがある。

時事刻々

### 本会の政治へのかかわりについて 「特定の政党を固定的に支持しない」

前回に引き続き、開祖・庭野日敬の法話を基に、本会の政治へのかかわりについて、その考え方を紹介します。

.....  
本会は選挙のたびに推薦委員会を開き、どの方を推薦し、支援するかを決めています。だからといって会員にそれを強制するものではありません。

「立正佼成会は宗教団体であります。(中略)政治とか選挙とかいう問題については、しかるべき人を推薦したり後援したりすることはあっても、最終的には個人の意思を尊重するものであります。」と開祖は述べています。

また、本会は政党を固定的に支持することはありません。なぜならば、本会は仏法の真理のみに絶対忠実でありたいと願う団体だからと述べ、

「そもそも仏法の真理とは(中略)『われわれが住んでいる現象の世界に絶対の存在はない。すべては相対的な存在だ。だからこそ、それを正しく善く美しくすることができるのだ』というこの真理だけが絶対なのであります。われわれが特定の政党を支持しないのも、それが絶対でないからです。絶対でないものと固定的なつながりを持つことは、真理に背く好意であり

ます。」と断言している。そこで本会は、「どの政党でもどの政治家でも、正しく善く美しいものはこれを支持し、またより正しい、より善い、より美しい政治をするように支援し、すこしでも仏法の真理をこの現実世界に顕現せしめようと願うのであります。」

したがって、本会は政党をもち、直接政治に携わることは、邪道だとしています。しかし、政治家に対しては、積極的に接して行きます。

「政治家と接するのは、あくまで民衆のためであって、自己の教団が権力から特別の庇護を受けたいためであるとか、利益打算のためであってはならない。」

との、開祖の考えに基づくからです。また、開祖は民主主義が優れた政治システムだと評価し、次のように述べています。

「民主主義とは、時間と手間のかかる、たいへんノロマなものです。なぜならば、必ず大勢の人の考えを聞き(中略)、その中から『これこそみんなのためになることだ』という方針を煮詰めていくのが民主主義の進め方であるからです。(中略)たいへん時間と手数のかかるものですが、それだけに大きな失敗がありません。」  
(つづく)

### 第41回 青年の日2010

5月16日(日)、41回目を数える「青年の日2010」が全国的に開催された。

京都教会青年部ではアームズダウン署名運動を清水寺、三条川端、三条河原町、四条川端、四条河原町の5ヶ所で行った。青年だけでなく、壮年、一般の方々の協力もあり、京都教会あげての取り組みだった。結果、約100名が参加し、5971名の署名が集まった。



### 他教団活動紹介

(中外日報6月5日より)

#### 善意バザー賑わう

金光教泉尾教会(三宅光雄教会長、大阪市大正区)で5月23日、第30回チャリティバザー「世界中の子どもたちの笑顔のために」が開催され、近隣の住民約2千人が来場。泉尾教会信徒会員たちが売り子を務めるちゃんこ鍋、焼き鳥などの模擬店が多数出展し、格安の商品が並んだ。

この日の収益金165万4115円は、人類共栄会(会長=三宅教会長)を通して南アジアの恵まれない子どもたちを支援する活動に全額、寄贈された。

### 私たち kinki.genki

~ 舞鶴教会の記事より ~

青年の日にあたる5月16日、「社会変革の風をおこそう」のメインテーマのもとで天ノ橋立にて清掃奉仕、一食ユニセフ街頭募金、アームズダウン街頭署名が行われた。清掃奉仕は「地球環境を守る心を育て、天ノ橋立の世界遺産登録のためにお役に立たせて頂き、清掃奉仕を通じて人と人、人と自然との共生ができる平和な心を育てる」を目的に行われた。清掃前に府土木事務所の職員さんより諸注意を受け、280袋の松葉等の回収ができ、いい汗をかけた喜びの言葉いっぱいの日だった。

## ウガンダへの愛 Tシャツに (京都新聞より)

アフリカ・ウガンダの元子ども兵支援に取り組む京都市伏見区のNPO法人テラ・ルネッサンスと西京区ののれん店「しょうび苑」が、チャリティーTシャツを作った。

カンボジア支援活動などを通してテラ・ルネッサンスと交流のある歌手の一青窈さんが趣旨に賛同し、花

とチョウのデザインを提供した。

Tシャツはしょうび苑が1枚1枚手作業で染め上げた。1着4千円(送料別)。うち500円を元子ども兵社会復帰事業への寄付に充てる。

<http://www.terra-r.jp/yo> で販売中。



鬼丸理事長(左)と上林さん(右)

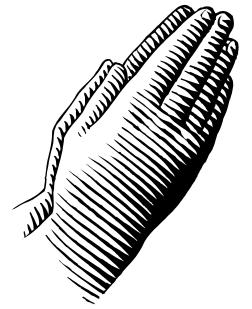
## 倭成のことば (行法ガイドブックより)

### 見せられる (聞かされる、思わされる)

事故の現場に出くわした、夫婦げんかの場に居合わせたなどの場合に、よく「見せられた」という言葉を使います。好ましくない縁に触れ、それを自分のこととして受け取ることは大変難しいことです。しかし、『如来寿量品』に「我常に衆生の道を行じ道を行ぜざるを知って 度すべき所に随って 為に種々の法を説く」と説かれていますように、仏さまは衆生のすべてを常に見通され、知り尽くしていますから、衆生的心掛けや機根に応じて適切な方法を選び、さまざまに法を説いてくださっています。ですから、身の回りに起こるすべての出来事 自分にとってプラスのこと

もマイナスのことも、「すべて仏さまが自分を高めようとして大切なことを教えてくださっている」と感謝で受け止める。目の前の現象を「見せられている」と受け止めることができれば、「仏さまから自分の足りないところを教えていただこう」と真剣に内省・讒言(ざんげん)ができます。努力・精進する心も起こってきます。すると、さまざまな問題を明るい方向に展開できる自分になれるのです。

私たちは自分に関係のなさそうな出来事を人ごとと片付けてしまいがちです。そうしたことも自分を振り返る縁としていきたいものです。



## 仏教を生活に生かす 「日常生活の中の仏さまの教え」

### 《心の中の宝物・・・仏性開顕》

寛容の心をもって人に対すれば、その人の可能性を伸ばしてあげたいという気持ちが、ひとりでに生じてきます。そんな気持ちを慈悲というのです。

人生の中での出会いや体験を通して、私たちはただ一つのことを実現するために生きています。それは、心の中の宝物を発見し、それを花開かせるということです。仏さまは、私たちが人生の中でそのことに気づき、仏性を花開かせることだけを願って下さっています。失敗も成功も、喜びも悲しみも苦しみも、そのための大切な教材です。

庭野開祖は「**仏性開顕こそが私たちの本業であって、その他のことはアルバイトみたいなものだ**」と、おっしゃっていました。「**仏性開顕**」私たちは毎日の出会いを通して、それだけをすればいいのです。私たちはつい、こう言ったとか、言われたとか、やったとか、やられたとか、表面的なことで判断してしまいます。けれども、表面を見ないでその奥にある心、宝物を見ていく訓練をしていくことが大切です。

すべての縁は自分の心境がどこにあるのかを知る尺度であり、私たちが人の心の本質を見ていくための課題なのです。すべての縁は仏性を開顕するためにある

という、この一点を信じ切って、ここに照準を合わせて、世の中を、人を見ていく、そして信じていく。これが仏になる道です。私たちが、共に歩んでいる道です。自分の心のあり方一つで目の前に現れる状態が一変することを体得するのが大事なのです。

そうなると、どんな問題が起きても「こういう問題が出てくるのは、仏さまが私を見守っていて、ここでもう少し人間味を深めさせてあげようと、大慈大悲の心で試験問題を与えて下さったのだ。有りがたい手配だ」と、仏さまを心から信じることができるはずで

庭野開祖は「**法華経というのはこのお經典のことだけを指すのではなく、真理を説いた教えなら、それはみんな法華経なんです**」と、おっしゃっていました。それならば、世の中には、たとえ法華経に出遭ってなくても、仏さまのはたらきをしている菩薩さまがたくさんいるはずで

すべての人の仏性のあらわれを自分の目でみることはできません。しかし、**仏さまの教えによって、すべての人に仏性があるのだ**ということ、しみじみと悟ることはできます。

## 庭野開祖の宗教観・平和観 「一乗の道」

### 《テンブルトン賞》

アメリカのプリンストンで開催されていた、第3回世界宗教者平和会議(WCRP)は、カーター大統領夫妻や中国仏教会の趙樸初氏らとの出会いをはじめ、様々な成果をおさめて幕を閉じた。

もう一つ、このプリンストン会議で庭野開祖が異体同心の連帯感を強く感じさせられたことがあった。それは、1979年度のテンブルトン賞受賞者に庭野開祖が選ばれたことを、ジャック事務総長が皆さんに報告し、その副賞の8万ポンド(約2千万円)が、世界宗教者平和会議の基金として寄付されたことを報告した時だった。

この受賞を、わがことのように心から喜んで下さる皆さんを目の前にして、庭野開祖は、このテンブルトン賞は世界の宗教者への受賞にほかならない、と心から思った。テンブルトン賞というのは、宗教界に新風をふき込み、活力を与える創造的な活動をした宗教者に送られる賞である。

この賞は日本ではあまり知られていないが、米国の著名な投資家であり経済研究者であるジョン・テンブルトン氏が、「人間にとって最も大切な宗教にノーベル賞がないのはおかしい。それならば私が、宗教の発展に尽くした人を表彰したい」という考えで創設されたもので、欧米では「宗教界のノーベル賞」と言われているという。

世界各国から推薦された人の中から候補者を選び出し、9人の審査委員によって毎年、一人の受賞者が選ばれるのだそうだ。審査委員には、フォード元大統領、ベルギーのフォビオラ王妃、ギリシャ正教大主教デメトリオス一世、銀行家のロスチャイルド氏などが名を連ね、日本では、大谷光照師(浄土真宗本願寺派前門主)、越後正一氏(伊藤忠相談役)も審査委員を務められたことがあった。

これまでの受賞者には、インドのマザー・テレサ、世界の人びととキリスト教の愛を分かち合うことを目指す「フォコラーレ」運動の創設者キアラ・ルービック女史などが選ばれている。テンブルトン賞がそうした名誉ある賞であることを知って、庭野開祖は初め、とても自分が受賞に値するとは思えなかった。

実は、4年前にも同じようなことがあった。米国の

イリノイ州シカゴにあるシカゴ大学神学部大学院に所属するミードビル・ロンバート神学院が、名誉法学博士号を下さるといった話があったのだ。

この時も、庭野開祖は柄ではないと辞退した。小学校を出ただけで、学問的な知識はまるでない。これまでやってきたことも、宗教者としてごく当たり前のことに過ぎない、というのが理由だった。だが、まわりの人たちからは「佼成会の会員全体の精進の証として受けるべきではないか」と言われ、なるほど、そうかと思ったのである。

ミードビル・ロンバート神学院からの博士号は、立正佼成会の会員の一人ひとりが37年間にわたって仏教の教えを実践し、その真理を、自らの体験をもって世の人々に証明してきたことに対して授けられるものだと考えれば、喜んで受けていいはずだった。

会創立37周年の記念日に、立正佼成会の大聖堂にWCRPの同志でもあるマルコム・サザーランド学長が来られて、3万5千人の会員、さらには各国の来賓の前で、名誉博士号の証書を読み上げて授与して下さった。

「世界市民であり、宗教協力と相互理解のための使者である庭野日敬師。あなたは、立正佼成会の会員はもとより、米国ユタ州のモルモン教徒、カンタベリーの英国国教会、パチカンのローマ・カトリック、ベトナムの仏教徒、ハイデルベルグのプロテスタントにも親しまれている。

あなたは世界の大きな困難な状況にくらべて、自分の成してきたことはまだまだ足りないという謙虚さを持たれている。あなたほど自分の宗教に熱心で、かつ他には寛容であり、また、あなたほど宗教協力による理解を世界平和の基盤にしようと、身命を惜しまずに働いた人はいない・・・」

庭野開祖は、「この『あなたは』という呼びかけは、個人に対するものではない。『一人では何もできない。しかし、一人が始めなければ何事も始まらない』と東奔西走してきただけで、それを多くの人が支え、盛り立てて下さればこそその今日である。『あなたは』とは、まさしく、そうした人たちへの呼びかけにほかならない」と語り、この受賞の喜びを会員たちと共に分かち合った。

(つづく)

### 渉外部からのメッセージ

平安月報が今月で30号になりました。とはいえ特に記念特集はなく、ちょうど現在取り組んでいるARMS DWONの記事満載になりました。京都教会も青年部主体の運動が今や教会全体の動きになっています。取り組む中で、ただ単に署名を集めればいので

はなく、世界平和を我が願いにすることの大切さを感じると共に、まだまだ核の現状を知らない自分たちであるかを気付かされます。益々これからです！この月報を読まれて感想などがありましたらお気軽にお寄せ下さい。 RKK 京都教会 FAX 075-762-2266